

- 問1 自由貿易を推進する動きの中で、農産物などの輸入関税を下げたり撤廃したりすることに対し、国内で根強い反対意見が出る理由として最も適切なものはどれか。（2019年 和歌山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 輸入関税を下げると国内の農産物価格が急騰し、消費者が購入を控えることで農家の所得が減少するため。 | 2. 他国からの輸入品に高い関税をかけ続けなければ、貿易相手国から自国の工業製品に対して報復関税を課されるため。 | 3. 海外から安価な農産物が大量に流入することで、生産コストの面で不利な国内の農業が打撃を受けるため。 | 4. 関税を撤廃すると貿易相手国との市場の拡大が停止し、自国の工業製品の輸出機会が失われるため。 |
|---|--|---|--|
- 問2 日本は、鉄鉱石や石油などのエネルギー資源を海外から買入れ、国内の工場で自動車や電気機器といった製品に作り替えてから、再び海外へ販売する貿易を長く行ってきました。このような、原料を輸入して工業製品を輸出する貿易の形式を何といいますか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 中継貿易 | 2. 自由貿易 | 3. 垂直分業 | 4. 加工貿易 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問3 新幹線や高速道路などの交通網が整備され、都市間の移動に必要な「時間距離」が短縮されることで、地方都市の住民や経済機能が大都市へと吸い寄せられ、結果として地方が衰退してしまう現象を何といいますか。（2021年 岐阜県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|---------|------------|------------|
| 1. ストロー現象 | 2. 過疎現象 | 3. ドーナツ化現象 | 4. スプロール現象 |
|-----------|---------|------------|------------|
- 問4 レタスの月別出荷量を示した資料において、長野県は他の産地の出荷が少ない7月から9月にかけて出荷の大きなピークを迎えています。このように、特定の時期に出荷を集中させる目的として、最も適切なものはどれですか。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------|---|---|--------------------------------------|
| 1. 梅雨の時期の長雨を避け、病害虫の被害を最小限に抑えるため | 2. 大消費地から離れているため、輸送コストを抑えるためにまとめて配送するため | 3. 他の産地の出荷が減り、市場での価格が高くなる時期を狙って収益を上げるため | 4. 冬の寒さによる作物の凍結を防ぎ、耕れる前にすべての収穫を終えるため |
|---------------------------------|---|---|--------------------------------------|
- 問5 日本の貨物輸送において、自動車による輸送から二酸化炭素排出量の少ない鉄道や船による輸送へ転換することを何といいますか。（2025年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------|---------|--------------|------------|
| 1. ジャストインタイム | 2. ハブ空港 | 3. パークアンドライド | 4. モーダルシフト |
|--------------|---------|--------------|------------|
- 問6 主要7か国（G7）の食料自給率を比較した統計において、カナダは穀物で350%、肉類で140%を超える高い数値を示していますが、日本は米以外の穀物（主に小麦）で約16%、肉類で約61%と、多くの食料を輸入に依存しています。日本の肉類の自給率に関連して、食料安全保障上の課題を説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 広島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 国内の肉類消費量が米の消費量を下回っているため、政府は肉類の輸入を制限して米の消費を促している。 | 2. 肉類の自給率はG7諸国の中で最も高く、日本は世界最大の肉類輸出国のひとつとなっているため、輸入への依存は問題にならない。 | 3. 日本の地形は平坦で広大なため、カナダと同様の企業的な大規模経営によって肉類の自給率は年々上昇している。 | 4. 家畜を育てるための飼料（えさ）の多くを輸入に頼っているため、飼料自給率を考慮した実質的な自給率はさらに低くなる。 |
|---|---|--|---|
- 問7 日本の貿易において、東京港や大阪港などの大消費地に隣接する港の輸入品目を分析した際、千葉港などの工業港と比較して割合が高くなる傾向にある品目として、最も適切なものを選択してください。（2015年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-----------|--------|-------|
| 1. 衣類 | 2. 液化天然ガス | 3. 鉄鉱石 | 4. 原油 |
|-------|-----------|--------|-------|
- 問8 日本が長年にわたり加工貿易を中心とした経済成長を目指してきた背景として、日本の資源や地理的条件をふまえて説明したものとして適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 国土の大部分が山地であり、大規模な工場を建設するための平地が内陸部に不足していたため。 | 2. 四方を海に囲まれているため、原材料を輸出して農産物を輸入する方が効率的だったため。 | 3. 工業製品の製造に不可欠な鉱産資源やエネルギー資源の自給率が低く、海外に依存せざるを得ないため。 | 4. 国内の消費市場が小さく、原材料を国内で調達しても製品を売る先が海外しかなかったため。 |
|--|--|--|---|
- 問9 自然界に絶えず存在し、一度利用しても比較的短期間で再生が可能であるため、枯渇する心配がないエネルギー資源を総称して何と呼びますか。（2020年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|--------------|----------|
| 1. 化石燃料 | 2. 非鉄金属 | 3. 再生可能エネルギー | 4. 核燃料資源 |
|---------|---------|--------------|----------|
- 問10 農産物の産地を比較した説明として正しいものを、次のうちから選びなさい。なお、データ上の特徴として、Aは北海道が収穫量の大部分を占め、長崎県が上位に入り、Bは鹿児島県と茨城県が収穫量の上位を占めているものとします。（2023年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------|------------------------|----------------------------|------------------------|
| 1. Aはてんさい、Bは茶である。 | 2. Aはさつまいも、Bはじゃがいもである。 | 3. Aは乳牛の飼育頭数、Bは肉牛の飼育頭数である。 | 4. Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。 |
|-------------------|------------------------|----------------------------|------------------------|
- 問11 静岡県周辺における高速道路の整備状況を示した資料において、新東名高速道路の開通前には年間227回発生していた「10km以上の渋滞」が、開通後には年間4回まで激減したという統計があります。このように劇的な渋滞緩和が実現した要因として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 東京都公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 1. 高速道路の最高速度制限が大幅に引き上げられたため | 2. 全ての大型貨物車両の通行が禁止されたため | 3. ETCの導入により全ての料金所が撤廃されたため | 4. 並行する二つの路線に交通量が分散されたため |
|-----------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|
- 問12 二千二十四年時点の統計において、群馬県、茨城県、愛知県、三重県などの県で、その地域の総人口に占める数値が四パーセント以上という高い水準を示している指標として、最も適切なものはどれですか。（2026年 青森県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------|------------|----------------|-------------|
| 1. 老年人口の割合 | 2. 合計特殊出生率 | 3. 第一次産業就業者の割合 | 4. 在留外国人の割合 |
|------------|------------|----------------|-------------|
- 問13 米粉用米の活用が、将来的な「食料安全保障（食料の安定供給）」にどのように寄与すると考えられますか。その仕組みとして最も適切な説明を選びなさい。（2021年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 食料の大部分を海外に依存する体制を強化し、国内農業のコストを削減することができる | 2. 農地をすべて工業用地に転用することで、加工食品を輸入するための外貨を稼ぐことができる | 3. 水田を維持・活用して国内の生産基盤を保つことで、将来的な食料不足のリスクに備えることができる | 4. 米粉の需要を抑制することで、主食用米の価格を大幅に引き下げて安定させることができる |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 海外から安価な農産物が大量に流入することで、生産コストの面で不利な国内の農業が打撃を受けるため。	海外の広大な土地で大規模に生産された安価な農産物と比較して、日本の農業は小規模で生産コストが高くなりやすい傾向があります。関税をなくして自由に取引を行えば、安価な輸入品に市場を奪われる可能性が高いため、国内産業の保護を重視する立場から反対意見が出されます。
問2	答え 4 加工貿易	日本は国土が狭く、工業に必要な地下資源が乏しいため、海外から安く原料を仕入れ、国内の高い技術力で付加価値をつけた製品を売ることで経済を発展させてきました。かつての日本の貿易における最大の特徴であり、高度経済成長期を支えた基本的な構造です。近年では企業の海外進出が進み、現地生産や製品の輸入が増えたため、この形式の割合は以前よりも低下しています。
問3	答え 1 ストロー現象	交通網の整備は利便性を高める一方で、地方から大都市へのアクセスが容易になるため、購買力や労働力が大都市側に「吸い寄せられる」という副作用を生むことがあります。この様子を飲み物をストローで吸い上げる姿になぞらえてこのように呼びます。時間距離の短縮が必ずしも地方の活性化に直結しないことを示す地理用語です。
問4	答え 3 他の産地の出荷が減り、市場での価格が高くなる時期を狙って収益を上げるため	野菜の価格は市場に出回る量によって変動します。平地の産地が暑さで生産を控える夏場に、高冷地の涼しい気候を利用して出荷することで、供給不足による価格上昇のメリットを享受し、農家の収益を高めることができます。
問5	答え 4 モーダルシフト	自動車による貨物輸送から、環境負荷が小さく大量輸送が可能な鉄道や船を利用した輸送へと転換することをモーダルシフトといいます。トラックドライバー不足への対応や二酸化炭素排出量の削減を目的としています。
問6	答え 4 家畜を育てるための飼料（えさ）の多くを輸入に頼っているため、飼料自給率を考慮した実質的な自給率はさらに低くなる。	日本の肉類自給率は、一見すると約6割を国内で賄っているように見えますが、実は家畜が食べるトウモロコシなどの飼料（えさ）の多くを海外からの輸入に依存しています。そのため、飼料自給率まで含めて計算すると、日本の食料自給率はさらに低い水準となり、国際情勢の変化によって輸入が途絶えた際に食料を安定供給できなくなるリスクを抱えています。
問7	答え 1 衣類	東京港や大阪港は、背後に巨大な人口を抱える大都市圏（消費地）が存在します。そのため、工場で使われる原材料よりも、私たちの生活に直結する衣類や食品、日用品などの「製品」の輸入が多くなるのが特徴です。一方、鉄鉱石や原油、液化天然ガスなどは、主に製鉄所や石油化学コンビナートがある工業港で多く扱われます。
問8	答え 3 工業製品の製造に不可欠な鉱産資源やエネルギー資源の自給率が低く、海外に依存せざるを得ないため。	日本は鉄鉱石や原油といった工業に必要な資源が極めて乏しいため、経済を発展させるためには、これらを海外から輸入して付加価値の高い製品を作り、輸出して外貨を稼ぐ必要がありました。この背景が、加工貿易という形態を日本の主要な経済モデルとした最大の要因です。
問9	答え 3 再生可能エネルギー	地球温暖化対策の一環として、石炭や石油といった限りある化石燃料に代わる資源として注目されています。太陽光、風力、地熱、バイオマスなどがこれに該当し、二酸化炭素を排出しない、あるいは大気中の炭素量に影響を与えないという特徴があります。
問10	答え 4 Aはじゃがいも、Bはさつまいもである。	じゃがいもとさつまいもは、どちらも日本を代表するいも類ですが、栽培に適した環境が異なります。じゃがいもは冷涼な気候を好むため北海道が主産地となりますが、さつまいもは温暖な気候を好み、火山灰地でも育ちやすいため、鹿児島県のシラス台地や茨城県の台地での栽培が盛んです。この産地の違いは、中学地理における農産物の判別のポイントとなります。
問11	答え 4 並行する二つの路線に交通量が分散されたため	もともと東名高速道路に集中していた車両が、並行して走る新東名高速道路を利用するようになったことで、一台あたりの道路占有率が下がり、交通の分散が図られました。この「ダブルネットワーク化」により、慢性的な交通渋滞が大幅に解消され、物流の効率化に貢献しています。
問12	答え 4 在留外国人の割合	自動車工業などの製造業が盛んな北関東や東海地方の県では、労働力として日本に中長期的に滞在する外国人が多く居住しています。そのため、それらの県では総人口に占める在留外国人の割合が、全国の他の地域に比べて高くなる傾向があります。
問13	答え 3 水田を維持・活用して国内の生産基盤を保つことで、将来的な食料不足のリスクに備えることができる	食料安全保障とは、不測の事態が生じても国民が十分な食料を得られるようにすることを指します。米粉用米の需要に応じて水田を有効活用し続けることは、一度荒廃すると復元が難しい水田機能を維持することに直結します。これにより、将来にわたって国内で食料を生産できる能力（生産基盤）を確保することが可能になります。